

酒類ガイドライン遵守推進本部だより

ほろにかが

平成26年10月16日
全国卸売酒販組合中央会
酒類ガイドライン遵守推進本部

「基本にもどって」

委員 福井 稔

8月の広島北部集中豪雨による土砂崩れに続き、9月には御嶽山の噴火と自然災害による多くの尊い命がなくなる悲しいニュースが飛び込んでまいりました。被災された方々には心よりご冥福をお祈り申し上げます。

今年はお盆が過ぎるとグッと気温が下がり正に北海道らしい秋を迎えております。

昨年の記事の中でご紹介しましたが、ここ数年道産米の評価が格段に上がり、道とホクレンで進めている「米チェン」いわゆる道産米にチェンジしようというキャンペーン効果もあり、道内における道産米の消費は80%を超えるまでに至っております。

これに連動し北海道酒造組合でも「酒チェン」を展開し、道産優良酒造好適米「吟風」や「彗星」等での仕込みを推進し好評を博し、清酒販売が全般的に低迷の中で道産酒全体は堅調に推移しています。

本年はHNK連続テレビドラマ「マッサン」の放映も始まり、地元余市・小樽では観光機運も大いに盛り上がりを見せております。また小売業、メーカーともに「マッサン」効果に便乗しウィスキーブームを盛り立てようと躍起になって活動をしているところです。

一方、北海道経済を見ますと他の地方エリアと同様にアベノミクス効果の恩恵も殆ど無く、特に消費税増税後は経費高騰、人手不足と厳しい状況下に置かれているのが現状です。

消費税増税後、広域量販やリージョナルスーパーの合従連衡が加速し、生き残りを賭けた競争が益々熾烈を極めるとの予測もある様です。まだ決定はしていないものの消費税10%導入を見据え、ある大手小売業は価格による市場競争は避けられないとの見解を示しております。このような環境の中、我々組合は平成18年度に国税庁から発出された新指針に基き「合理的価格」の設定・定着に取り組む事が求められており、改めて我々酒類流通業界の立ち位置を確認すべき時と感じております。

先に紹介した「米チェン」「酒チェン」はチャンスを逃さず地道な努力で大きな成果に結びつけた一つの事例です。組合活動もあるべき姿を求め地道に取り組み、是非大きな成果を勝ち取りたいものです。

○ 平成 26 年第 3 四半期ビール及び発泡酒等の出荷状況

(単位：kℓ・%)

期間 区分	第 3 四半期 (7-9 月)			1 ~ 9 月		
	当月数量	前年数量	前年比	本年数量	前年数量	前年比
ビール	741, 223	762, 986	97. 1	1, 959, 843	1, 978, 698	99. 0
発泡酒	227, 595	199, 861	113. 9	560, 935	551, 459	101. 7
新ジャンル	505, 363	542, 982	93. 1	1, 445, 563	1, 498, 737	96. 5
計	1, 474, 181	1, 505, 829	97. 9	3, 966, 341	4, 028, 894	98. 4